

山陽新聞に掲載されました

岡山勢躍動 自己新で初V 陸上



陸上女子400m障害を61秒20で制した石原涼華

石原
倉敷中央
積極果敢

開口番「もうちょっといけたかな」というのが本音。陸上女子400m障害の石原は、自己記録を0秒20更新する61秒20で戴冠にも満足しなかった。積極性を見せた予選の反省を踏まえ、決勝は序盤から攻めた。「絶対に勝つ」とアクセル全開で飛ばし、2位に1秒以上の大差をつけてフィニッシュした。心4.17年大会でそれぞれ日本一に輝いた0残りし「くりこなかつた」と後半のコーナーワーク。「もう少しスムーズに走れば、60秒台に突入できたかも」と悔しかった。

高校入学当初は短距離をメインとし、400m障害に転向してまだ1年が。レースの走力もハードリングもまだ「と組削りである」ことを自覚するハードラーは、十分成長の余地を残している。個人種目では初めてのインターハイに臨む3年生には、心強い存在もいる。2014.17年大会でそれぞれ日本一に輝いた0Gの荒馬、倉敷南高出の高木は、「少しでも近づきたい」と練習を共にする人から走れば、60秒台に突入できたかも」と多々(S)を吸収し、決勝進出に挑む。(松原悠)

女子400障 序盤から全開 タイムは不満

6月18日(日) 山陽新聞(朝刊)

倉敷中央快走 県新V



(写真右から) 陸上女子1600mリレーで5年ぶりの頂点に立った倉敷中央。1走田辺理桜(右)から2走石原涼華にバトンが渡る▽3走木梨光菜(右)からバトンを受け、走り出すアンカー平岡優花=シティライトスタジアム(中西弘之撮影)

従来記録
2秒近く更新
バトン流れるように

流れるように4人のバトンが繋がった。陸上女子1600mリレーは倉敷中央が3分45秒10の岡山県新記録を樹立し、2014年に先輩たちがマークした従来記録(3分47秒00)を2秒近くも短縮。「45秒台を狙え」と言っていたけど、本当に出るとは」と百戦錬磨の森定監督も驚く快走だ。400mリレーで屈したライバルの皆美に一度もト

陸上・女子1600リレー

ツブを譲らなかった。「一人一人が最初から突っ込んで走れた」アンカー平岡。メンバーが個人種目で味わった悔しさが原動力になった。100mで全国切符にあと二歩届かなかった1走田辺は「切り替えて全てをぶつけた」と上々の56秒台発進。100m障害で優勝を逃した3走木梨がギアを上げると、200mで8位の平岡がリードを守り、皆美の3走を阻止した。この種目の優勝は5年ぶり。全国でも上位のタイムを出し「選手間の競争が本当に激しいけど、それが倉敷中央の強み」と2走石原は言う。チームの底上げも進み、インターハイで初受賞(6位)を遂げた2009年以来となるファイナル進出が見えてきた。(松原悠)

6月19日(月) 山陽新聞(朝刊)